

## 「ながの協同集会」によせて

中川雄一郎  
協同総合研究所  
明治大学

昨年10月30日～31日にわたって「いま『協同』を拓く2004全国集会 in ながの」が開催された。全体集会に1,200名、(移動分科会を含む)14の分科会に900名の人たちが参加し、それぞれの人たちがこの協同集会を大いに盛り上げてくれた。私は、「副実行委員長」として末席をけがしたにすぎなかったが、事務局の方々をはじめすべての集会関係者に心より感謝申し上げたい。

実行委員会事務局をリードしてくださった原山政幸氏(労協ながの)によると、この協同集会については、2003年の春に日本労協連理事会から2度にわたって開催の打診を受けて2度とも「受け入れ困難」と断わったが、同年秋の「長野県非営利・協同懇談会」の席上で集会開催の受諾を決定したとのことである。そしてこの受諾が1992年に京都で開催された「いま協同を問う92全国集会」に遡ると原山氏は打ち明けている。「いま『協同』を問う」から「いま『協同』を拓く」へと非営利・協同の運動を取り巻く客観的条件と主体的な意識は大きく変化してきたとはいえ、この双方の協同集会が人びとの間で強く結びついていることを知らされたとき、一連の協同集会が地域と世代を超えて成果を生み出していることを私たちは見て取ることができるのである。

今回の「ながの協同集会」は数えて第10回目の協同集会であり、伊東で開催された第1回協同集会からおよそ20年の歳月が経ったことになる。この20年間に日本の社会は大きく変化したが、その変化は地球的規模での経済・社会的変化の一環であり、私たちがしばしば口にし耳にする、言うところの「経済的、社会的グローバリゼーション」がもたらす一つの帰結でもある。寺島実郎氏による基調講演「世界潮流と日本の進路：地域、NPO活動がもたらす公共の創造」は、グローバリゼーションがもたらす世界的規模での経済的、社会的変化に対する日本経済や日本企業の、したがってまた日本社会の進行方向を鋭く問うものであった。これはグローバリゼーションという世界的な規模の変化とそれへの対抗軸としての非営利・協同の意味を考えさせる貴重な講演であった、と私は考えている。

田中康夫氏(長野県知事)と堀内光子氏(ILO駐日代表)による「記念対談」もまた、私たちに多くの示唆を与えてくれた貴重な対談であった。両氏の発言の端々に経済・社会的なグローバリゼーショ

ンの影響が表現されていて、聴衆には大変興味深ものがあつたらう。

「その地域で暮らし、その地域を創っていく人間的な絆を意味する」田中氏の「コモンズ」は、グローバリゼーションを良く理解しているが故に発せられる言葉であり、それ故にまた、起点なり基軸なりをどこに置いて長野県の政策を立案し、「復興運動」を進めるべきかがはっきりと見て取れる言葉である。堀内氏の言う「グローバル化のなかの『仕事』」は、グローバリゼーションがもたらす「貧富の格差の拡大」という負の部分を「ディーセントな仕事」を通していかに克服していくのか、またそのための起点や基軸をどこに置くべきかを暗示してくれている。「誰が地域の担い手なのか」あるいは「主体者は誰なのか」担い手も主体者も「その地域で暮らし、その地域を創っていく人間的な絆」を求め、織り成す人たち=市民である この視点こそが国と国、地域と地域の「格差の拡大」という負の部分を減少させ、やがて克服して「ディーセントな生活」を創りだすためのもっとも基本的な視点である、と私は理解している。

この対談のコーディネーターを務めた菅野正純氏(日本労協連理事長)が提起した課題は非常に重要である。「コモンズ」をどう育てていくのか、換言すれば、「ディーセント・ワーク」や「ディーセントな生活」を実現する基礎であり、土台である「自然環境や生活産業の基盤あるいは福祉や教育をはじめとする社会制度」の重要性を政策のなかで明確に認識することが肝要だという提起である。そう認識することは、「公共の領域」にエンパワーメントをもったすべての自立・自律した市民が深く広く関わっていく「協同労働」の出発点となるからである。

堀内氏は、菅野氏のこの問題提起に答えて、「今問われているのは新しい公共性であり、公共部門の役割と良い意味での市民の役割とのパートナーシップの再構築」である、と論じた。「新しい公共性」は「新しい公共部門の役割」を求め、そして後者がまた「新しい市民の役割」を求めるようになれば、両者の役割がパートナーシップで結ばれて、「新しい公共性」が「ディーセント・ワーク」や「ディーセントな生活」したがってまた「ディーセントな社会」の創出に貢献するようになるのだと堀内氏は強調したかったのでは、と私にはそう聴こえた。田中氏も最後にこう強調していた。「(政府は、教育や医療に)努力をするということは全然違う意味での弱肉強食的な民営化を入れようとしている。それが改革のように言われていますが、真の改革はもっと違うところにある、ディーセントな社会を創るのが改革なのに。」